

北川正恭・発起人代表 発言要旨

総選挙にむけ「せんたく」発足 「平成の民権運動」を推進

1. 今年は平成元年に政治改革が始まってから20年、総選挙にマニフェスト（政権公約）が導入されてから5年の節目にあたる。場合によって総選挙も予想されている。今年は日本の将来を左右する、きわめて重要な1年になるものと認識している。
2. いま、国民生活の土台は大きく揺らいでいる。後に続く世代のために、「地域」「生活者」「環境」起点で「日本の作り直し」「日本の洗濯」を急ぐ必要がある。政党、政治家は真剣な議論を行い、来る総選挙に向けて周到なマニフェストを用意し、国民に堂々の「選択」を迫る責任がある。また、国民も主権者として、どのような国づくりをめざすべきか、決意の「選択」を行う時に来ている。
3. しかしながら、政府、与野党、国会の現状を見ると、国民の期待からほど遠いと言わざるをえない。各党とも「地域重視」「生活・生活者重視」を主張しているものの、分権改革に象徴されるように、国民に重い「選択」を求めるだけの十分な「党内論議」「国会審議」「体系的で責任ある政策」ができていない。また、分権改革を求めてきた地方の側も、国民の側も、「お上意識」が抜けきれていない。同じ「日本丸」に乗船する者として、国民と政党・政治家の双方が「意識改革」「自己改革」を断行すべき時期に来ている。
4. このような時代認識のもと、私たちは決意を決めて立ち上がることにした。政治改革に取り組んできた「21世紀臨調」を母体として、志を同じくする首長、地方議会関係者、学識者、経済界、労働界などを発起人として、「地域・生活者起点で日本を洗濯（選択）する国民連合」（せんたく）を立ち上げる。本日の記者会見を正式なキックオフとして、2月上旬に「本格発足」する予定だ。
5. 私たち「せんたく」は、来る総選挙を意義あるものとするため、総選挙を目標に、総選挙に向けて活動を展開する。戦後の「お任せ民主主義」「霞が関・官僚主導」を打ち破り、地域社会や生活の現場から、これまでの日本人の「生きかた」「暮らしかた」「働かかた」を根本から問い直す「地域・生活者起点の日本変革運動」（平成の民権運動）を立ち上げ、「この国の洗濯」を呼びかける。単なる政策提言ではない。「これ以上の先送りを許さない」ため、国民に自己改革を呼びかけ、政党政治家に真剣な議論を呼びかける運動体だと考えて欲しい。
6. これまで21世紀臨調は政党の掲げるマニフェストを検証評価する活動を進めてきたが、それだけではすまない事態を迎えている。「せんたく」は、各党が政策を練り上げ、マニフェストをつくるプロセスに国民の立場から積極的に発言し、政党に説明責任を求める役割を担いたい。
7. また、「せんたく」は私たちの活動の趣旨に賛同する与野党の国会議員に対し、党派を超えた新しい議員連合の発足を呼びかける。私たち「せんたく」と「議員連合」は二人三脚で「地域・生活者起点の日本作り直し」に必要な政策論議を行う。そして、私たちとの交流の中で認識の共有化や相違点を明らかにするとともに、それをもとに党内で侃々諤々の議論を行い、政策論議を活性化させ、有意義な総選挙での「選択」につながることを望んでいる。「せんたく」は、そのために必要な「プラットフォーム」を国会議員側に提供し、議論の共通の土俵を提供する用意がある。「議員連合」は2月上旬の本格発足までに立ち上げるべく、これから各党の有志と調整を急ぎたい。
8. 「せんたく」の活動趣旨、時代認識は配布資料のとおりである。これからさらに各界の賛同者を募る。
 - 1) 国民の意識改革、自己変革の推進、
 - 2) 「霞ヶ関・官僚主導」からの脱却、責任ある「政治主導」の実現（脱官僚、脱中央集権）、
 - 3) 地域・生活者起点の「政策の作り直し」「国の仕組みの作り直し」がキーワードだ。生活者が主役の、国民の、国民による、国民のための新しい政治の実現をめざす「平成の民権運動」と呼んで欲しい。この国の民主主義の進化をめざしたい。